

幸才マ邇儂

20231015 VOL16 AREN_ME



幸才マ邇僞

20231015 VOL16 AREN_ME

私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

今回の表紙について:

秋風や 藪も畑も 鍬の先 これ思いだし、Imaharu rice fields depend on us now. ですね



青春といえば…青春は ♪ Both Sides Now ♪

第16回 「作業から創造へ」

ユソセンヤン ありがとうございます。

もし、あなたが直径3センチの穴からしか見えない視野で、野菜や肉を与えられ、何を作るのかを知らされずに、30の行程だけを教わり、食事を用意するように言われたら、どうでしょうか？

とにかく、自分が何を作っているかはわからないけど、小さな視野で苦労しながら、一生懸命に作りますが、きっとものすごく時間がかかりますね。

では、通常の視野の状態、茄子の煮浸し、炒飯、筑前煮、青菜炒めを作るように言われ、必要な材料を渡され、作り方の行程を教わったらいかがでしょう。

もっと速く作ることが出来ますね。

前者が時間がかかり、後者が短時間で調理ができるのは、視野の大きさだけが理由なのではなくて、自分が何を作るかを知っている、ということです。

人は、自分が受け取る達成をきちんと知り、それを受け取るために今自分がこれをしている、という認識を持つ時、その達成を受け取るまでの時間が短くなります。

前者は、視野が狭く、そして何を作るかを知らない状態、すなわち達成がなく、ただ行程だけを知らされているために、ただの「作業」になっています。

後者は、全体を見渡し、そして受け取る達成を知っていますので、それは「創造」になっています。

皆さんが、実習をする際に、時間がかかるのは、やり方を覚えて、それでやろうとするので「作業」になっているからです。それを「創造」にするためには、実習全体として受け取る達成が何か、そして一つ一つの行程が何をしているのか、などをきちんと理解してから行うことが必要です。

そのようにして実習をすると、おそらく今よりもずっと速く終わります。

時間を創造する、とはこのようなことです。

ユソセンヤン ありがとうございます



第16回 キオマ食堂について

ユソセナシマ ありがとうございます。

今回は、キオマ食堂についてお伝えいたします。

KIRが運営しているキオマ食堂では、絶対の光の価値を持つ食事「7次元食」の提供を目指しております。

キオマ食堂には、ロランさんと、KIR内で人事異動があり、10月1日からチラテさんの2名でお食事をつくり、皆様にご提供させていただいております。

今治の農地で、KIR農法部門のスタッフが作った、野菜が食材としておかずとなり、ランチプレートにのることもあります

お食事をお召し上がるのと共に、キオマ食堂から見える景色や、店内の雰囲気、そこにいる人々との会話などを、ご体験いただきたく思います。

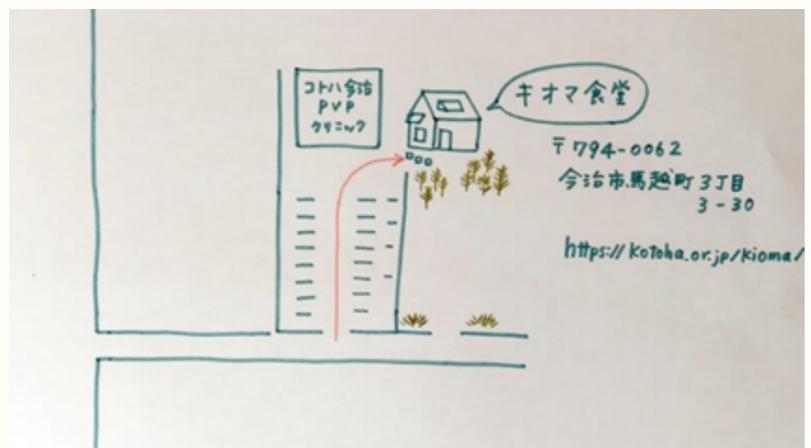
店内にはノートを置いておりますので、体験していただいたことをぜひシェアしてくださいませ。

ご予約をご希望の方は、

コトハ・インテグラルリサーチ ホームページ⇒キオマ食堂の項目にある、
予約フォームより、ご予約をお願い申し上げます。

※ご予約は、ご希望日の2日前の午前中までをお願いいたします

※もしご要望などがございましたら、予約フォーム「メッセージ欄」にてご連絡をお願いいたします。



ユソセナシマ ありがとうございます。



植物から自然知性を学ぶ

ロヲマ

第16回 植物の多様化から、色々と思うこと。

ユソセロヲマ ありがとうございます。

今治農地では、色々な植物や虫などの生物が沢山います。

それがひとつ。となっているのが畑です。

ひとつの内訳は、色々な生物や植物がいる多様化です。

そして同じ植物でも、成長が違います。

これも多様化だと思えます。

もし多様化がないとしたら、植物は全て同じ背丈で成長して、すべて同じ形になっているでしょう。

DNAで遺伝子組み換えをすれば、可能かもしれないですが、それは自然ではありません。

畑では、色々な植物や生物、そして、成長具合が違う植物や生物が絶妙なバランスで1=3という全体性が在ります。

それは、はじめからそうなるようにプログラムされていると思うほど、絶妙なバランスです。

これが自然という秩序だと感じます。

多様化があるから、階層構造というものがあり、そして、階層構造があるから進化があると感じることが出来ます。

逆に言うなら、多様化というものがなければ、進化というものが無いことに気づきます。

でも人間は、他者との違い、相対で悩み苦しむ方が多いのではないのでしょうか。

植物の成長は、成長が早いものが大きな実をつけることもないですし、成長が早いから良いということもありません。

植物は各々が、自らが然るべきように育ちます。

人も植物のように、自らが然るべきように成長することが出来たら、どんなに楽なんだろうと思います。

でも、人だけが他の植物や生物とは違い、創造の源として、意図を持ち生きることが出来ると言われてています。

意図を持つことが出来るからこそ、色々悩むことが出来て、所有するものになり、進化出来るのかもしれないと思いました。

進化とは、何か？と色々自問自答していますが、自身という存在を完璧に知ることが進化では？と感じています。

なぜなら、植物や他の生物は、自身の役割を知っているからこそ、自らが然るべきように成長できると思うからです。

ユソセロヲマ ありがとうございます。



青春といえは…青春といえは、普遍意識が経験を所有するためのもの。
青春に同化して、目覚めて、粒子化して手放し、
再創造することにより経験を所有する者になれるかなと思っています。

第16回 大三島の柑橘

ユソセキマレ

ありがとうございます。

大三島は日中はまだ暑さが残っていますが、朝晩は過ごしやすい気温になってきました。大三島のお祭りも10月の初旬までに行われ、お祭りまでは何かと落ち着かないところが多かったですが、今では落ち着きを取り戻しています。

大三島ではお祭り後は、いよいよ柑橘の季節に入っていきます。大三島でも昔から柑橘類の栽培が盛んだったようです。最盛期には島の耕作地の8割以上が果樹園を占めていました。大三島では美味しい柑橘が育つ、3つの条件を満たしているそうです。

美味しい柑橘が育つには3つの太陽があるとされています。空からの太陽の光、海から反射する太陽の光、傾斜地から照り返される太陽の光。この3つの太陽の力に恵まれているため、美味しい柑橘ができています。

大三島は年間の平均気温が15度以上で、冬は最低気温が-5度を下回ることはありません。8月~10月は、1日の日照時間が長いという特徴があります。

そして、沿岸部に面した急斜面は雨が降っても水捌けがよく瀬戸内海からの潮風を浴びた土はミネラルを含んだ栄養豊富な土壌です。

大三島はこうした気候や環境に恵まれているため、柑橘の栽培が盛んです。これから多様な柑橘の季節がやってくるのが楽しみですね。

ユソセキマレ

ありがとうございます。



第16回 意図

ユソセシヲリ

ありがとうございます。

最近、講座を受講するという点において、全ては自身の意図なんだと実感することがありました。

詳細について書くことはできないのですが、「これをする」と決めたのです。そして、「これ」には自身の欲求と他者の進化を願う純粋な思いの両方がありました。そういう意味で完全ではなかったかもしれませんが、シヲリの意図＝純粋な印象による光の現しだったのかな、と思います。

と同時に、その時のプロセスをチャンダスとしてのみ捉え、それを追いかけると途端に何か失われると感じるのです。

その「何か」とは、まさに意図です。意図するとは、心を込めるのとは違います。自然知性に寄り添い、作法で行うことです。

起こった出来事の形や意味を追いかけるのではなく、毎瞬間意図し、創造していく。そのように生きようと思う今日です。

ユソセシヲリ

ありがとうございます。



第16回 K-PVT

ユソセメセン ありがとうございます

K-PVTの技術にはステップがあり、自身の内側に目覚める「光の体験」の技術と様々な「響き」の技術を習得することで、自身の響きを整え、光を外側へと放射していく者となっていきます。

ステップが上がり、光を放射する者としての知識と技術を身につけた者は、活動のすべてが世界に光を放射するものになり、より専門的な知識と技術を学ぶことで、この世界に調和と豊かさをもたらしていきます。

ユソセメセン ありがとうございます



青春といえば…青春！！

第16回 進化するキオマ食堂

ユソセロラン

ありがとうございます

祝祭後のキオマ食堂は、(つまり前号のキオマ通信後のキオマ食堂は、となる訳ですが)これまでとは少し様相が変わりました。

メンバーが変わり、雰囲気が変わり、メニューが変わり、時間の流れ方が変わりました。引継ぎする間もなく、ろくに挨拶も出来ないままにnewキオマ食堂となりましたので、あれれ?なことも諸々あったりしますが、概ね結果オーライです。

キオマ食堂からお届けするお食事をつくる【私たち】が、【キオマ食堂として】お出しできるお食事をご用意することができるようになりつつあります。

今、その過程は、想像以上に刺激的で笑いがあって自由で和やかです。

「この庭をみながら食事をつくれるのは、最高の贅沢だね」

今朝もそう言い合いながら、

大好きな『キオマ食堂の庭』を愛でながら、

私たちは毎日の達成を受け取っています。

(今日は庭の木にとまってツクツクボウシが鳴いていました。10月なのに?ありえん)

私たちは創造の源としてそれぞれの場所で光を生きて光を放つ存在ですが、キオマ食堂で切磋琢磨しながら創造する私たちのつくるまかないとその空間を、よろしければ味わいにいらしてください。

週末金曜・土曜のみOpenしているチケカフェにも是非!

キオマの庭も四季折々の姿で迎えてくれます。

ユソセロラン

ありがとうございます



第16回 その16

ユソセチラテ
ありがとうございます。

10月に入り、チケカフェのメニューbookが3冊目となりました。

6月の終わりにふと閃いたアイデアで、某無印の絵本ノートに、ハーブや菓子の写真を切り抜いて貼り付け、その隙間にその日のメニューを書き込むということを、ほそぼそと続けてきました。先ほど、1冊目の最初のページから順にぺらぺらとめくってみて感じたのは、何書いてんかようわからんけど、この人は毎回、そのときの一生懸命さでもってこれを書いているんだなあということでした。

「この人」で。あんたやん。自分で自分をほめたい系？
いや、そうではなくてですね、ひとつひとつ何が書かれてあるか、ということよりも、全体を通してそーゆーものが感じられた、というのでしょうか。実際書いている最中は、毎回毎回反応していたとて、メニューがたとえ同じでも、開店に間に合わない自身の達成の観えていなさにへこんでも、とにかく毎回必ず書くこと決め、そうして形にしたものの連なりとしてあるこれらは、そうした反応祭りを軽々と超えているように感じられたのであります。

ま、お腹の足しにはなりません、一度みにいらしてくださいまし。
ここ最近、ちらっと絵を描いたりしてます。
ついでに、記憶に残らんチラ菓子もどうぞ。

ユソセチラテ
ありがとうございます。



コトハを学び、ミコトを生きる

ナラユ

第14回 「他者に光を観ようとする（モンゴル編）」

ユソセナラユ

ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ナラユです。ミコトオンがワランからナラユになりました。今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第14回です。

ナラユは、ちょうど1年前、ルートラーナ創造活動グループのメンバーと一緒にモンゴルに行きました。

モンゴルでは、首都のウランバートルを中心に、各地で祭祀やポートの実習を行うため、砂漠の中を車で走ったり、山の上の寺院を訪ねるなど、たくさんの貴重な経験をしましたが、その中でも印象に残っているのは、モンゴルの人々の尊厳に触れたことです。

とくに遊牧民の住居を訪ねた時には、彼らの誇りと確信、そして、そこから溢れ出る優しさや強さを感じました。

遊牧民は、周りには草原と砂漠しかない地域において、ゲルと呼ばれる移動式住居で暮らしています。もちろん、インフラは整備されていません。しかし、不思議なことに、全く不自由さを感じることはなく、むしろ、そこにはすべてがあるように感じたのです。それは、おそらく、そこで暮らしている彼らの尊厳がそう感じさせたのだと思います。

そして、彼らの尊厳に触れたとき、自分の中にもそれがフワッと溢れ出てくるのが分かりました。これは、相手の尊厳に触れることで、自分の中の尊厳が大きくなる体験でした。

コトハでは「他者に光を観ようとすることを続けていると、自身の内側にも光があることが分かる」と言いますが、モンゴルでは、まさにそのような体験をすることができたのだと思います。

ユソセナラユ

ありがとうございます



青春といえば…甘酸っぱい or ほろ苦い

第16回 クの中のクメハク メの中のメハクメ

ユソセキリヲ ありがとうございます

突然ですが、キオマ通信は、ルートラーナ暦に合わせて発行しています。前号は「ク」の期間の初日が発行日でしたが、「ク」の時期は光への粒子化と還元がなされ、全体の体験がもたらされる期間といわれています。そのような期間中、皆さまは、どのように日々を過ごされておりましたか？

キリヲにとっては、「粒子化」を知るための学びの期間となり、反応から行動を起こしたり、なんとかしようとするは「破壊」で、反応に気づき、それを静かに眺めて手放すのが「粒子化」なのだ、理解を深めることができました。

ルートラーナ暦は8つの「クメハ」から成り立っていて、各クメハの中には4つの区分があります。たとえば「ク」の期間は「ク」から始まり、「メハ」と続き「ク」で終わります。

「メ」の期間なら「メ」で始まり「ハク」と続き「メ」で終わり、「ハ」の期間なら「ハ」から始まり「クメ」と続き「ハ」で終わります。

クの期間に、粒子化への理解が段階的に深まったことから気がついたことですが、この4つの区分は、その期間に受け取る達成を大きくするための巡りのように感じられました。

クの期間においては、例えば今回の経験でいえば、「粒子化する」という達成を受けとったり大きくするために、クから始まり、クで終わるのだと。

(先生に確認させていただいたところ、この理解でよいとおっしゃっていただきました)

キリヲには、何かを言葉にするとき、容易に愛という言葉を選択できないところがあるのですが、その構造に気がついたとき、自然知性の大きな愛を感じました。

ルートラーナ暦では、本日からメの「目覚め」の期間に入ります。

私たちは自然知性に寄り添うことで、期間中、その目覚めをもっともっと確かな目覚めにすることが出来ます。

それはとても素敵なことで、希望であり、達成だ、と感じます。

各クメハの初日は、最終日にその達成を受け取るための準備としてお祝いをすべき日なのかもしれません。

そのような日に皆さまの元にお届けするキオマ通信が、祝いの日にふさわしい欣びの媒体であるよう、願いをこめて。

それでは、次回は約2週間後のアレンのハ、満月の日にお目にかかれますよう。

本号も最後までお読みくださり、まことにありがとうございます。

2023年10月15日、アレンのメ、新月の日に。

ユソセキリヲ ありがとうございます





KoToHa *Integral Research*